

第五章

「質の高い仕事の進め方

「5段階のレベル表」

質の高い仕事の進め方の 例示

「質の高い仕事の進め方」=「真・報連相」、私は、「仕事の進め方」=「報連相」、

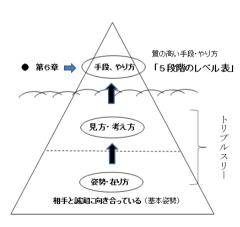
と、捉えています。

レベル表」にして表現して例示しました。 として、報連相に落とし込み、「5段階の質の高い仕事の進め方を具体的な「行動

す。「手段・やり方」を目に見える形に「質の高い仕事の進め方」の「見える化」

しました。

質の高い仕事の進め方の「体系」



「真・報連相」とは、すなわちこの本の内容のことです。「質の高い仕事の進め方」

「5段階のの別名です。

「5段階のレベル表」の中の次の4項目は、意味が分かりにくいかも、と思いました

- ① コスト意識(報告2)のでミニ解説をしました。
- 意見具申(相談3)根回し(相談3)

2

- 意見具申 (相談3)
- 仕事を楽しんでいる(連絡5)

4 3



註: A4サイズの別紙を添付

1	# - ₩ ~	λη ω	2 年	jil o) y
- 整型性 运行 第 経過分 速 長 截	・ コスト等級を与って機構がしている ・ 数字の影響と、このの対点を自ら影響にもしてい ・ 反應の影響とは、・ 手声数様的をしている ・ 数字の影響とは、・ 手声数様的をしている ・ 数字(複字)を スは毎個におからっている。 まス ・ カガルが開始さ、 などもない。 はちに、 多じた人に 自然数字 ・ でいる ・ でいる。 では、 まじた人に 自然数字している ・ でいる。 では、 まじた人に 自然数字している ・ 後述、 日後の上のでは、 多じた人に 自然数字している ・ 第45 日後の影響となりのでは、 まじた人に 自然数字している ・ 160 日後のこので、 ちがしゃずい 実施をしている	80 ている 20 重要を集せる中華。 20 10 7 2 4 4 4 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・神流や状の数をだけに止まらず、「自分の意思」 もしっかり述べているし、「精和」を終えている ・連続に対え、、原因か今と解決数を表もしている ・性級を表指された場合。 連切機能をしている 上型に対しておけてかく。 解す、後後の、、同様・ 関係を表指しい数をも数かりなく行っている	・日間に事務しては3、日沿にも原因があるに、何年の報義的が終しのは、日沿にも原因があるにとに表している。 何年の日本のは、日沿にものはなりではませている。 何年の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の	かですさい 浩 [編念+ g.]
	は、お妻(大き)、近隣の世界の は、お妻(大き)では多くではる ・無常な事故は本年に発送しからったがとちが発展 している(最終な事態) ・表現シートを託してなしているし、規模な事業を 別ができる ・の様と通うにとは、その事情によるにも事業を表 している(もくという。現代が明ら) ・思い事情による場合となったがあり ・思い事情には関係によっている。 ・思い事情には関係によってものでは ・思い事情には関係によってがあり ・を必要に、関係と生きがではなってがあり を手を見て、関係と生きがではなっている。 ・表情(でき)、上記が日にないる。	・構築が「建設の基金化」という音楽であることを 関系している。また、実施の対象を指わている。 ・観察している。また、実施の対象を指わている。 ・観察なり「建設業界」と上来を実施している。 ・通常なくが高級をはしている。またが高の森原を している。最終、が高級の実い会けたら様でいる)。 (メール、最終、が高級の実い会けたら様でいる)	・資産資、飲金流、業務性の数値(治費門、改役) かどの資金を一長度い過去でしている(表い過去、 食・分野の過去でも近くいる) 、基本の保証をでも近くいる) ・選条の保証を対象がなりなりでも簡単とか、原稿 が技力に関係をもつかとうか。かども与えている ・生命表の選挙に対え、加工事表の選挙もできる。	・教養者を表したのじめ、現の事業研究、「人権者のでしる」。 第15年第11日 のではのメリア」を守っている。 本質の発売しためのは即日ではのになるがしているのです。 事業の発売された際に、生きなのです。 事業の発達等で入場してりなしている。	1 2

① コスト意識を持って仕事をしている

ビジネスパーソンは、あらゆる場面で、あらゆることに、コスト意識をもってあたる

ことが必要です。

言えません。報告書の作成に時間がかかり過ぎてはいませんか。報告にもコストがかか 例えば、報告書のことですが、やたらきれい、美しいほどよい、 詳細なほどよいとは

っていることを忘れないようにしたいものです。

うです。 も、詳細すぎるものがあるので、社員にコストを忘れないように注意を促がしているそ 報告は詳細なものが求められます。これが影響しているのか、 ある県の酒造会社の社長さんからお聞きしました。お酒のメーカーでは、 簡単でよい社内の報告に 税務関係の

ラフルな報告書が出てくるが、もっと報告の中身の充実を求めたい気持ちになることが あるそうです。中身に比べて、外形が美し過ぎるのです。 また、あるコンピュータソフト会社のマネジャーのお話では、パソコンを駆使したカ

ト意識の欠如ではないでしょうか。 報告の表現を工夫することは勿論必要なことですが、手間暇を掛けすぎるのは、コス

② 根回し

た「志事」に取り組む仕事人間には必要です。 指示待ち族には根回しは不要です。「これだけは、成し遂げよう」と、自らが心にきめ

てきます。 と了解を得た上で、関係者を自分の味方にし、仲間にするために、根回しが必要になっ な人も反対する人もいます。自分の意志を、あくまで実現しようとすれば、上司の理解 自発的にとりくむ課題ですから、賛同する人や協力する者は少ないでしょう。無関心

見方を変えると、実質的には根回しになっているのです。 の達人は、「あの、ご相談ですが・・・」と言いながら相談をするのですが、その相談は その根回しですが、「根回しに来たこと」が相手にわかるようでは成功しません。仕事

③ 意見具申(いけんぐしん)

積極的に自分の意見を申し述べることです。依存人間にはできません。 は、上司の職責範囲内のことについて、(差し出がましいこと、僭越なことを、あえて) 見を申し述べることです。「提案」は、自分の仕事の範囲内のことですが、「意見具申」 「意見具申」とは、古めかしい言葉ですが、上級機関や目上の人に対して、自分の意

うような場合です。日頃から深く部門全体のことを考え、経済の流れ、業界の動き、過 「うちの部門では、来期○○を取り上げてはいかがでしょうか。理由は・・・」とい

去の経緯、トップの方針などを研究・理解していて初めてできることです。 意見具申を、差し出がましい、と感じる上役もいますので、仕事の達人は「あの、ご

相談ですが・・・」と言って、相談の形をとりながら提言をしています。

④ 仕事を楽しんでいる

れるのではないでしょうか。そのような人がおられたら、仕事師の最高度に位置すると しかし、仕事の目的とか、手段(目標)を超越して、「仕事を楽しんでいる人」がおら 「目的思考」の大切さを繰り返し述べました。

「子曰、知之者不如好之者、 好之者不如楽之者」

思います。論語にある言葉を紹介します。

これを楽しむ者に如かず)

先生が言われた、「知っているというのは楽しむ者には及ばない」先生が言われた、「知っているというのは好む者に及ばず。

まとめ

この本では、「質の高い仕事の進め方」の「全体像」(体系)を提示しました。仕事は、

技だけでなく、心技体でするものだからです。

これまでも、「仕事の進め方」の本は多数出版されています。それらの殆どは、次の「氷

態度、人生の在り方、など自己探求の本です。AもCも有益であり、必要ですが、「質の 山図」でいえば、▲(手段・やり方)の解説本(ハウツー本)です。 ▲と同様に多いのは、C(姿勢・在り方)を説いた本です。仕事への取り組み姿勢・

高い仕事の進め方」の捉え方としては不十分です。

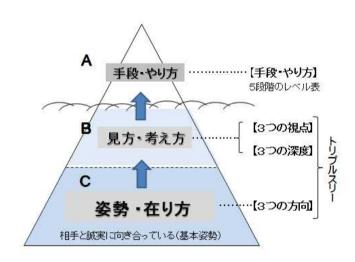
これまで無かったのが、AとCの中間にある、B(見方・考え方)です。

した。そして、**C**「3つの方向」と併せて、**トリプルスリー**として詳しく説明しました。 この本で、初めて、B(見方・考え方)を「3つの視点」、「3つの深度」で提示しま

A、B、Cのセットによって、新人から経営幹部まで、どなたにも有効な「質の高い

仕事の進め方」の「体系」を明確にすることができました。

「質の高い仕事の進め方」の体系 氷山モデル



するためには、水面下のトリプルスリーに着眼することが必要です。 つの深度」と、「3つの方向」があります。したがって、質の高い手段・やり方の選択を 水面下にはその「手段・やり方」を生み出している目とて、つまり、「3つの視点」、「3

トリプルスリーは、本書で詳しく説明しましたが、次の3×3=9項目です。

[第一章]「3つの視点」とは、次の3視点です。

- ①「自己」との関係で手段を捉える
- ②「環境」(例えば相手)との関係で手段を捉える
- ③「目的」との関係で段を捉える

① 深度1 「事実情報の共有化」

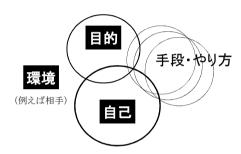
(第二章)「3つの深度」」とは、情報の共有化の

「3段階の深度」のことです。

- ② 深度2 「意味の共有化」
- ③ 深度3 「考え方の波長の共有化」(思い)

[第三章]「3つの方向」」とは、 相手と誠実に向き合っているか 自己の姿勢・在り方を振り返る3つのポイントです。

「手段・やり方」を 捉える「3つの視点」



情報の共有化の「3つの深度」

深度 1	事実情報の共有化	知っている	猒
深度 2	意味(目的)の共有化	わかっている	訊〈
深度 3	考え方の波長の共有化	「思い」の共有化 (共感、感動 、やる気)	聴く

③ 相手と誠実に向き合っていない・・・② 必要な場合には、相手と誠実に寄り添っているか① 相手と誠実に向き合っているか

読者の皆様には、ヒントを掴んでいただけましたでしょうか・・・

ム式経営ですが、聴衆の中でただ一人、「まず思う」というヒントを掴まれたのです(P108)。 (P55) は、「目的思考」の大切さについてヒントを掴まれた実例です。 社労士Fさんの「セミナー受講感想文」(P42) や、Tさん、Kさんの「研修受講感想 稲盛さんが松下さんの講演「ダム式経営」で掴まれたヒントです。講演のテーマはダ 「ヒント」とは、新知識を覚えることではありません。参考事例があります。

この図書の出版に際しては、多くの方々のご支援をいただきました。

ありがとうございます。

二〇一七年九月八日

「質の高い仕事の進め方」研究会 コンサルタント 糸藤正士

〔著者略歴〕

昭和九年生まれ、昭和三十三年京都大学(法)卒。同年光洋精工(株)(現:

内容は「質の高い仕事の進め方」研修を実施。この本では、「トリプルス リー」という名称で、本来の内容である「質の高い仕事の進め方」の「秘 ら報連相研修を大量に発注していただいたからです。報連相という名前で、 研修素材として開発。 五十八歳で独立し、 十六才で退社。(株)リクルートと業務委託契約を結び、 (株)ジェイテクト) へ入社。総務部長、人事部長、 「質の高い仕事の進め方」を「真・報連相」の名称で 「報連相」と名付けたのは、独立当初に有力顧客か 購買部長、を務めて四 研修講師へ転職

(核心) を、公開しました。

『真・報連相のハンドブック』(日本報連相センター) 『報連相の技術がみるみる上達する』(日本実業出版社) "経営者・管理者のための 真・報連相読本』(鳥影社)

IF-636-0912質の高い仕事の進め方」研究会 奈良県生駒郡平群町竜田川一丁目十四の五 主宰 糸藤正士(いとふじ

まさし)

(連絡先)

Eメール itofuji@asahi.email.ne.jp

(=FAX) : 0745-45-8286

携帯:090-8935-3943

電話

219

[お願い]

本書の内容は、不許複製です。

教材とか講演の素材として、本書の内容の利用を希望される方は 日本報連相センターへご連絡ください。連絡先は左記です。

連絡先: (社)日本報連相センター 代表 延堂良実

メールアドレス: info@nhc.jp.net

電話: 06-6226-1262 携帯:080-4150-3127

HPアドレス: http://www.nhc.jp.net/index.html

原稿 完

- 「企業人にとって、最大の環境は上役なり」
- 「目標は、目的追及の手段なり」
- 「人はだれでも理解欲求をもっている(ワケを知りたいのだ)」(糸藤正士)
- 「リーダシップとは、助けてもらう能力なり」
- 「自ら機会をつくり 機会によって自らを変えよ」(江副浩正) 「今が、適齢期」(「内観法」の創始者吉本伊信) 「過去と他人は 変えられない」(エリック・バーン。カナダの心理学者)
- 「創っただけでは製品だ、売れてこそ商品だ」(小山昇)

「三つの否定はだめ/自己の否定 相手の否定 自分の商品の否定」

|離見の見」、「目前心後」、「初心忘るべからず」 (世阿弥)

「知らば見えじ、見ずば知らじ」(民芸運動の父・柳宗悦〔やなぎ むねよし〕)

- (規矩作法 守り尽くして 破るとも 離るるとてももとを忘るな(利休)

「守破離

「できない、と思ったら3つぐらいに分けて考える」

(日本能率協会 元副会長 コンサルタント畠山芳雄)のではないか、「今までのやり方では」できないのではないか。

(注:括弧内に氏名がないのは、「詠み人知らず」)





参考図書

『考え方』(稲盛和夫 大和書房)

"小倉昌男 経営学』(小倉昌男 日経BP)

『内観法』(吉本伊信 春秋社)

『「質」の経営論』(常盤文克 ダイヤモンド社)

『アサーション・トレーニング』(平木典子 日

日本・精神技術研究所))

『自分を生かして生きる』(西村佳哲(ちくま書房)『教えるということ』(大村はま(共文社)

『私とは何か』(平野啓一郎 講談社現代新書)

『不機嫌な職場』(共著 高橋克徳他 講談社現代新書)

『日本人の行動様式』(荒木博之 講談社現代新書)

『公と私』(三戸公 未来社)

『異文化インターフェイス経営』(林吉郎 日本経済新聞社)

『経営者・管理者のための「真・報連相」読本』(糸藤正士 『本当に尊いものは、実践からしか得られない』(延堂溝壑 鳥影社) 成長哲学講話集3)

